

音楽部会

I. 研究の概要

1. 研究主題

ときめき つながり ひびきあう心を
～音楽的な見方・考え方を働かせ、深め合う多様な学習活動の在り方～

2. 研究主題設定の理由

中央教育審議会答申において「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのように社会や人生をよりよいものにしていくかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である」とされた。

また音楽科では改定における基本的な考え方として「感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見いだしたりできるよう、内容の改善を図る」「音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働き、音楽文化について理解を深める学習の充実を図る」とされた。

新学習指導要領では音楽科の教科の目標を「表現及び鑑賞の（幅広い）活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽（音楽文化）と豊かに関わる資質・能力」〔※（ ）内は中学校の目標〕を育成することを目指すとした。また、学習指導要領解説音楽編には「客観的な理由や根拠を基に友達と交流し、自分の考えをもち、音楽表現や鑑賞の学習を深めていく過程に音楽科としての学習の意味がある」とある。

音楽科において児童生徒一人一人の個性や興味・関心を活かした歌唱、器楽、創作、鑑賞の多様な活動を行う中で、音や音楽、言葉等によるコミュニケーションを図りながら学習活動に取り組み、思考を深め、課題を解決していく中で身に付く力は、未来を拓く子どもたちに最も必要な力の一つである。

音楽に対してときめき、人や音楽とつながり、心をひびきあわせるために、思考を深め、学び合い、深め合うことが音楽科のねらいに迫る資質・能力、そして心を育て、子どもたちがこれからの世の中をより豊かに生きていくための大きな力の一つとなるに違いないと考え、この主題を設定した。

3. 研究仮説

表現及び鑑賞の活動を通して、他者と協働しながら、思考を深め、様々な価値観をもとに多様な学習活動を行う。その中で、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽に対するときめき、人や音楽とのつながり、そして心をひびきあわせることで、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく心を育てることができるのではないかと。

4. 研究内容

音楽的な見方・考え方を働かせ、深め合う多様な学習活動の在り方の研究を行う。

・協働的な学び ・対話的で深い学び ・思考、判断の充実 ・ICT 機器の有効活用

5. 研究方法

実技研修会・授業研究・理論研修会

Ⅱ. 実践研究の経過と成果

1. 専門部会第二次研究協議会での交流

(1) 専門部会第二次研究協議会での交流内容

小学校

① 授業公開の様子

5年生 題材名 日本の音楽「せんりつを感じを生かして民ようを歌おう」

授業者 : 長岡 弘佳 教諭 (恵庭市恵み野小学校)

共同研究者 : 阿部 郁 教諭 (恵庭市立恵み野旭小学校) 佐藤 香織 教諭 (恵庭市立恵み野旭小学校)

井上 陽子 教諭 (恵庭市立和光小学校)

本時の目標

- ・沖縄の音階を使い、沖縄の音楽の特徴にふさわしい表現を取り入れながら、どのように演奏するかについて自分の思いや意図をもって表そうとしている。【思考・判断・表現】

本時の展開 (4/4)

	学習内容	●教師の関わりと評価 ◇指導上の留意点	共通事項
導入	1. 前時の振り返りをする。 ・沖縄音階(ドミファソシド)から音を選んで組み合わせた旋律を確認する。 2. 本時の学習の課題を知る。	前時までに沖縄音階をつかって旋律を考えている。 グループで4分の2拍子8小節を考えている。 スマイルネクストに書き込んでいる。	
展開	沖縄の音階やリズムの特ちょうを生かした音楽をつくろう。 3. どうしたらさらに沖縄音楽に近づくかを考える。 ・リズム・速さ ・かけ声・合いの手等 ・終わりの人はドソドのいずれかの音で終わる。 4. グループごとに作った旋律を工夫や伴奏を入れて沖縄音楽に近づける。 ・グループで工夫の条件を選んで、作った旋律に変化を加える。 ・伴奏は、速さが普通・遅いの2種類からグループのイメージに合わせて選ぶ。 ・作った旋律をリコーダーで演奏する。 5. 発表をする。 ・いくつかのグループが発表する。 ・グループで作った旋律を演奏する。	●「どうしたら沖縄音楽に近づくか」を問い、どのような特徴を生かせば、自分たちの旋律が沖縄音楽に近づけることができるのか考えることができるようにする。 ◇既習事項からリズム・速さ等の沖縄音楽の特徴が出てきたら、板書し振り返りやすくする。 ◇Google 共有ドライブに速さの違う伴奏を貼っておき、選べるようにしておく。 ◇グループで2台タブレットを準備し、書き込み用と伴奏再生用に分けて使う。 ◇社会科で作成した沖縄県のまとめのプリントから沖縄県を想像しながら音楽づくりをする。 ◇リコーダーで演奏する。 ●沖縄の音楽の特徴にふさわしい表現を取り入れながら、自分の思いや意図をもって表そうとしている。【演奏の聴取、行動の観察】 ◇どのようにつくったのかを伝え合い、グループの工夫を共有する。聴き手の児童も沖縄らしさを感じたところや工夫していたところに注目して聴くように促す。	旋律
まとめ	6. 学習のまとめをする。	・グループで振り返りをする。	

評価

- ・沖縄の音階を使い、沖縄の音楽の特徴にふさわしい表現を取り入れながら、どのように演奏するのかについて自分の思いや意図をもって表そうとしている。【思考・判断・表現】

② 分科会での協議内容（授業者・共同研究者より）

- ・児童が意欲的に授業に取り組んでいた。普段は大人しい児童が多い学級であるが、話し合いものびのびと行っていた。
- ・創作の工夫をする際に、児童がそれぞれに思いをもって試行錯誤することができていた。
- ・伴奏の活用については難しかった。伴奏をつけて演奏するには時間が足りなかった。
- ・感想や振り返りの場面では、「音楽のもと」になる言葉を活用することができていた。
- ・音楽科の授業だけではなく、社会科での「沖縄の調べ学習」も生かし、教科横断的な指導が意識されていた。



③ 成果と課題

討議の柱1：子どもたちが音楽的な見方、考え方を働かせることができたか

【成果】

- ・「音楽のもと」の言葉が児童に定着しており、話し合いに活用することができていた。
- ・沖縄のイメージが全児童に共通理解されていたり、題名をつける活動を取り入れたりしたことでより創作の幅が広がっていた。
- ・沖縄音楽の創作は2時間という短い時数であったが、どのグループも音楽的な考え方を働かせ、沖縄音楽の特徴にふさわしい表現で演奏することができていた。
- ・各グループの発表の前に「題名」「創作の工夫」を発表したことで、聞く側の児童もポイントをおさえた聞き方ができていた。

【課題】

- ・導入で児童の発言や考えを生かすことができると、より主体的に学ぶことができたのではないかと。
- ・伴奏の音源を用意していたが、拍やリズムの難しさがあり、効果的に活用したグループは少なかった。

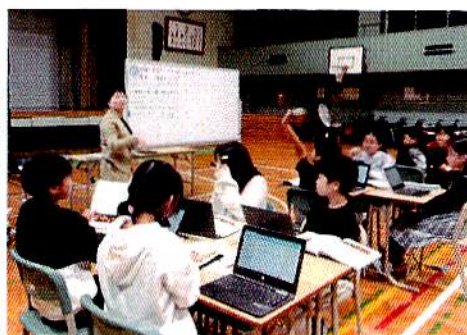
討議の柱2：多様な活動を通して、学びを深め合うことができたか

【成果】

- ・「沖縄音楽」について学ぶために、社会科で「沖縄の暮らし」について調べ学習をした内容を生かし、教科横断的に学ぶことでより深い学びへと繋がった。
- ・デジタル教科書の音源やアプリ等を活用し音源を出すこともできたが、今回はリコーダーでの試作を取り入れたことで試しながら創作したり、楽器本来の音色や響きを感じることもできたりと、生演奏のよさが生かされていた。
- ・タブレット端末を活用した音楽の創作、リコーダーを活用した試奏等活動の幅が広がり、も飽きることなく創作できたところが良かった。
- ・創作をする活動の時間が十分に確保されており、全グループが思いを込めた音楽を完成させることができた。また、自信作ができたため、発表交流にもとても意欲的であった。

【課題】

- ・グループ数が多く、座席配置も近かったため、お互いの音が混ざり合ってしまった。創作活動をする場合には、場の設定や工夫が必要であった。



中学校

① 授業公開の様子

3年生 題材名「鑑賞 文楽「義経千本桜」から」(音楽のおくりもの 中学音楽2・3下)
 授業者 : 中岡 貴子 教諭 (恵庭市立恵明中学校)
 共同研究者: 高橋 瞳 教諭 (恵庭市立恵庭中学校) 工藤 希 教諭 (恵庭市立恵み野中学校)
 坂見 明信 教諭 (恵庭市立柏陽中学校) 渡邊 萌愛 教諭 (恵庭市立柏陽中学校)
 小野寺紗耶子 教諭 (恵庭市立恵北中学校)

本時の目標

三業のかかわり合いによって生み出される効果について根拠をもって自分なりに考えられるようにする。

本時の展開 (2/2)

過程	学習内容	●教師のかかわりと評価規準◇指導上の留意点	共通事項
導入	・前時の確認 (主に三業について) 【全体】「三途の海の～」の部分から動画鑑賞 ・課題の確認	CBの準備 ◇課題を生み出す問いを投げかける 「三業って必要なの？」等	
展開	課題 三業がかかわり合って生まれる効果 をみつけよう CBでCanvaのURLを開き、自分のグループのシートを見つける 【個人】三業それぞれに注目しながら自分のCBで鑑賞→Canvaに付箋で入力 (知覚・感受も書かせる) ・～の表現をする時には小刻みに体を動かす ・声色を濁らせて、悔しさを表現している 【グループ】Canvaの図を見ながら、三業がかかわり合いや、かかわり合うことによる効果を話し合う ・死の場面での三業の特徴 ・死の表現をする時の三業のかかわり 【グループ】話し合いでまとまった意見をひとつずつ発表	●思判表 資料① ◇特に音 (声) 色とリズムについて考えるよう促す 付箋の色は統一しないが、長さや大きさ等は自由に変えて、二業や三業にまたがってもよいことを伝える グループごとにプリント (資料②) を配る 	音色 リズム
まとめ	【個人】CBでフォームに回答し、自分の言葉でまとめと振り返りを行う→スプレッドシートで公開	●主体的 資料③	
まとめ 三業がかかわり合うことで_____が生まれ、_____。			

評価

- ・知 技 文楽の特徴について理解している・・・B
 文楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性について理解している・・・A
- ・思判表 三業それぞれについて音色やリズム等を知覚している・・・B
 三業それぞれについて音色やリズム等を知覚し、感受と関わらせている・・・A
- ・主体的 三業のかかわり合いによる効果を自分の言葉でまとめている・・・B
 三業のかかわり合いによる効果を自分の言葉でまとめているとともに、文楽の固有性やよさについて記述している・・・A

② 分科会での協議内容

(授業者より)

歌舞伎やオペラの後に扱うことの多い教材だが、「三業」というシンプルでわかりやすいからこそ、最初にできると考えた。これまでは、三業を一つずつ聞き取っていたが、それぞれで聞くことで他の部分が入ってこないという課題があり、評価につなげるのが難しいと感じた。プレ研を重ね、三業を横断的に見ることで、ねらいに沿った活動になると考えた。また、知覚、感受を意識して指導案を作成した。

反応の少ないクラスだが、授業はよく頑張っていた。

(共同研究者より)

ICTの活用をどのようにするか試行錯誤する中で、使い慣れている Canva を使用することにした。7月にプレ研を行った際には「三業」をそれぞれ分けての授業展開だったが、1か所に注目すると他のところが目に入ってこない。あくまでも音楽だということを意識し、何回も授業を重ねるうちに内容が整理整頓され、三業がどのように関わるかを意識した授業展開にすることができた。

③ 成果と課題

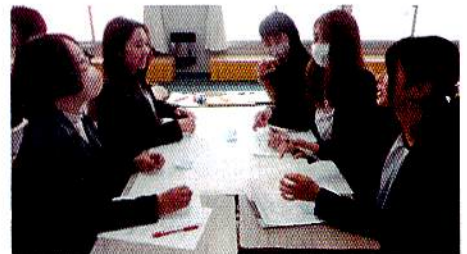
【成果】

- ・難しい内容だったが、三業の役割、ポイントを理解していた。
- ・音楽の要素を焦点化していたのがよかった。
- ・個人でまとめることで、しっかりと評価できる。
- ・シンプルで明確な言葉がけがよかった。
- ・まとめの発表、文字で可視化できていてよかった。
- ・個人の活動で、動画を見られていたのがよかった。
- ・ICT と、アナログとのバランスが良かった。
- ・アンケートがわかりやすい。
- ・「音を消すとどうなる?」「三業の1つでも欠けたらどうなるだろうか?」という問いかけで、より深く考えることができていた。
- ・自分たちの言葉でまとめることができていた。
- ・普段からやられているのか、根拠を明らかにしてまとめられていた。深い学びにつながっていた。
- ・個人→グループ→個人という授業の流れがスムーズで、どの生徒も取り残さないような授業だった。
- ・AI を使用しつつ、自分の言葉でまとめている。



【課題】

- ・教師主導になってしまっていた。生徒から課題を引き出すアプローチがあってもいいのではないかな。
- ・班でまとめたものを Canva のスライドにまとめると、視覚的にも共有できるのでいいと思う。
- ・音楽的…をどうとらえるのが難しい。オペラも同様、総合芸術なので造形物、演技、文学等の要素が多いのに加えて、西洋音楽とは違う音楽を捉えるのは困難。
- ・実演があったりしても面白かったと思う。
- ・話し合いに最初から役割があれば、時間を有効に使える。
- ・AI を使用した生徒の評価の仕方が難しい。
- ・TV モニターが小さい。(ICT 機器を使用する学習環境の課題)



(2) 専門部会第二次研究協議会での協議内容

小学校

	市町村	交流内容
授業紹介	北広島	題材名「音のスケッチ 和音に合わせてせんりつをつくろう」 北広島市立西の里小学校 渡辺亜紀子 教諭
教材紹介	千歳	■ミライシード オクリンクプラスを活用した授業づくり 千教振合同発表 題材名「いい音見つけて」 千歳市立高台小学校 横田 まほ 教諭

授業紹介	石狩	題材名「豊かな表現」教材「変わらないもの」「明日を信じて」		
		石狩市立厚田学園	大吉 幸	教諭
教材紹介	江別	■手話表現を取り入れた合唱曲の紹介	大畠 玲	教諭
		江教研合同発表 題材名「音の動き方を生かして せんりつをつくろう」	吉弘 文人	教諭
		石狩市立浜益小学校		
		江別市立江別太小学校	宮本亜紗実	教諭

中学校

	市町村	交流内容
授業紹介	北広島	■アーティキュレーションを工夫したリコーダーの授業実践 題材名 器楽「うぐいすのカノン」 北広島市立西部中学校 山本聖緒子 教諭
教材紹介	千歳	■作詞者作曲者の思いの寄り添った曲作り 歌詞の心情が伝わる表現の工夫 題材名 混声3部合唱「Let's search for tomorrow」 千歳市立青葉中学校 茶園みさ子 教諭
授業紹介	石狩	■リコーダーの基本的な奏法を身に着けてアンサンブルを楽しもう 題材名 リコーダー4重奏「アイルランドの民謡と踊り」 石狩市立厚田学園 大吉 幸 教諭
教材紹介	江別	■作曲 AI を使用した授業展開 <CREVO>の活用について 教材名 「学級のサウンドロゴを作成しよう」 江別市立野幌中学校 成島 優一 教諭

2. 成 果

日本の音楽の特徴を活用して旋律を考えたり、今まであまり扱われることのなかった題材による鑑賞の授業に取り組んだりする等、多様な学習活動を取り入れ、児童生徒の思いを大切にしたい授業実践となった。また、創作や鑑賞の活動を通して他者と協働しながら思考を深め、音楽活動の楽しさを体験する児童生徒の姿を見ることができた。

さらに、実技研修会や二次研究協議会の合唱交流会、学習会の中で、たくさんの「明日からすぐに実践できる技」を交流することができた。教師側も音楽の楽しさを再確認し、ときめきを実感した活動となった。今後も、指揮法や打楽器の演奏法等、日々の悩みに寄り添った研修内容を展開していきたい。

3. 課 題

創作や鑑賞の場面では児童生徒が自分なりに工夫をしながら意欲的に学ぶ姿が見られたが、授業導入から明確な見通しをもって学習に取り組むことができるようになると、より主体的に音楽活動に取り組み、表現の力を高めることができた。題材の前時までの学習はもちろんのこと、これまでの音楽科の学習を振り返らせ、活用できるようにする等、児童生徒が自らの学習活動をマネジメントできるように工夫した授業づくりを探究していく必要がある。

(文責 小笠原晴美・山田 綾)